

2022 TOEIC[®] セミナー 報告書

入学からキャリア支援までの
様々なTOEIC[®] Programの活用

2022年9月8日(木)

入学からキャリア支援までの 様々なTOEIC® Programの活用

2022年9月8日(木) オンライン開催

事例発表 ❶ 千葉工業大学 1

工科系学生に対する英語学習への動機付け ～千葉工業大学における全学的なTOEIC® Programの実践～

千葉工業大学 教学センター次長 仲村 啓介 氏

事例発表 ❷ 宮崎公立大学 6

教養あるグローバル人材養成にTOEIC® Programを活用

宮崎公立大学 人文学部国際文化学科 教授・地域研究センター長 竹野 茂 氏

事例発表 ❸ 静岡県立大学 11

グローバル時代に対応した言語能力養成を目指す — 静岡県立大学の取り組み —

静岡県立大学 言語コミュニケーション研究センター 前センター長 言語学博士 吉村 紀子 氏
静岡県立大学 言語コミュニケーション研究センター センター長 言語学博士 藤森 敦之 氏

工科系学生に対する英語学習への動機付け ～千葉工業大学における 全学的なTOEIC® Programの実践～



千葉工業大学 教学センター次長 仲村 啓介 氏

■ 工科系学生にキャリアとしての英語を 意識付けるために

本日は千葉工業大学の全学的なTOEIC® Programの運用について、事務職員という立場から紹介します。

最初に、工科系学生に対する英語学習への動機付けについてですが、一般的に工科系学生は英語が苦手だと言われます。一概にそうとは言えないと考えていますが、将来英語が必要になる場面をイメージできていない工科系学生は一定数いるのではないのでしょうか。もちろん、そうした学生も中学や高校の段階においては英語が入試で必要という意識を持っていたと思います。また、工科系の学生には専門分野を学ぶ意識は高いものがあると感じますが、これと同じくらい英語を学ぶモチベーションがあるかという疑問があります。

英語の必要性について考えた時、グローバル社会への移行に伴い、もはやビジネスという観点では国境はなくなり、海外産と国産の商品の競合が一層激しくなることが予想されます。技術者であっても英語で製品説明書やマニュアル、技術レポート、報告書を作ったり、商品や技術のプレゼンテーションを英語で行ったりという機会は当然のようにあるでしょうし、英語をコミュニケーションツールとして使うことが求められている社会になっているのではないのでしょうか。

そこで、本学ではTOEIC Programを通して、学生たちに英語の知識やスキルを向上させるというよりは、むしろ技術者としての英語の必要性や、英語は重要な

コミュニケーションツールであるということに気づいてもらい、そのうえで学習の後押しとなることに重点を置いて、運用しています。

■ 学生数1万人規模の私立工科系大学

本学のメインのキャンパスは千葉県習志野市内にあり、津田沼と新習志野の2つがあります。本部となる津田沼キャンパスは東京駅から総武線快速で約30分、さらに津田沼駅のデッキとキャンパスも直結しており、恵まれた立地にあると考えています。このほか、本学の情報発信の拠点として、東京スカイツリータウンキャンパスが東京ソラマチ8階にあります。

続いて、各キャンパスの機能についてです。津田沼キャンパスでは学部3、4年生と大学院生が主に学習しており、各学科の専門教員の研究室もあります。新習志野キャンパスは学部1、2年生が主に学び、学部共通教育を担当する教員の研究室があります。この2つのメインキャンパスの距離は直線で約5kmですが、移動に関しては片道約15分のスクールバスを運行しています。

学部学科の編成について簡単に説明します。資料1にある通り、本学は5学部17学科の編成です。

(資料1)

◇学部・学科編成

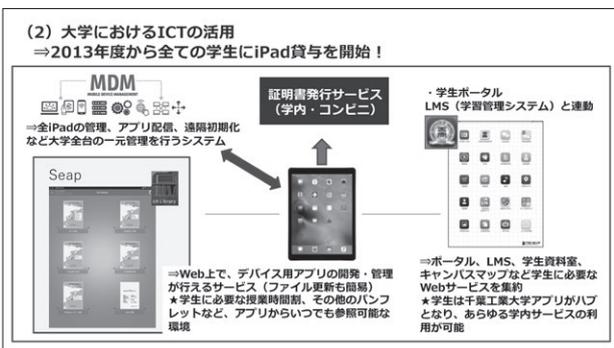
千葉工業大学 (昭和17年に設立) 2022年に創立80周年! !

工学部	創造工学部	先進工学部	情報科学部	社会システム科学部
機械工学科	建築学科	未来ロボティクス学科	情報工学科	経営情報科学科
機械電子創成工学科	都市環境工学科	生命科学科	情報ネットワーク学科	プロジェクトマネジメント学科
先端材料工学科	デザイン科学科	知能メディア工学科		金融・経営リスク科学科
電気電子工学科	学部：5学部 大学院：5研究科 学生数：10,175名 (学部：9,332名、大学院：843名) 教員：270名 職員：225名(嘱託を含む) (2022年5月1日現在)			
情報通信システム工学科				
応用化学科				

大学院については各学部を基礎として5研究科あり、修士課程が14専攻、博士後期課程が3専攻という編成です。学生数は10,175名で、学部1学年単位の在籍者数は約2,300名。2022年5月15日に創立80周年を迎えることができました。

TOEIC Programの運用にも関わってくるのですが、本学のICTの活用について紹介します。2013年度から全学生にタブレット端末を貸与し、これを起点にさまざまなWebサービスを展開しています(資料2)。本学独自のハブシステムを経由して、Web上で各種証明書の申請と決済ができ、学内やコンビニでも受け取れるサービスもあります。このようなICTの環境や仕組みはTOEIC Program運用のバックボーンになっています。

(資料2)

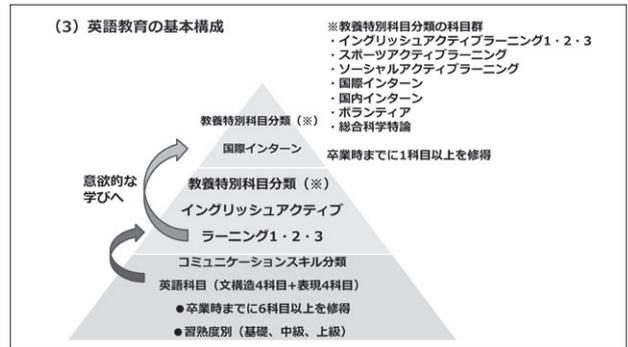


■ 意欲的な学びにつなげる
英語教育の基本構成

本学における英語教育の基本構成についてです。最

初に紹介した通り、本学ではTOEIC Programをあくまでも動機付けをメインに運用しており、正課の授業と直接的に連携をしているわけではありません。

(資料3)



資料3のピラミッドの一番下段にある英語科目が標準科目です。1年生から文構造と表現を学んでもらい卒業時までに6単位以上を修得します。なお、入学時のプレACEMENTテストでクラス分けをし、習熟度で基礎、中級、上級の3クラスに分けて授業を運営しています。

1つ上の発展的な学習として、教養特別科目分類を運用しています。学習で得た知識や基本的技術の応用を、実体験から身に付けてもらうという本学の特徴的な教育課程の1つで、卒業時までに1科目以上修得します。この分類にはイングリッシュアクティブラーニングの科目も設けており、英語の基礎力を土台として、意欲的に学習するという科目もあります。内容としては、英語による少人数の課題解決グループワークを行い、最後にプレゼンテーションするといったものです。

最上段には、国際インターンがあります。これは海外で30時間以上の就業体験などをします。基本的な英語教育は以上のような構成です。

■ 英語学習の動機付けに
TOEIC® Programを導入

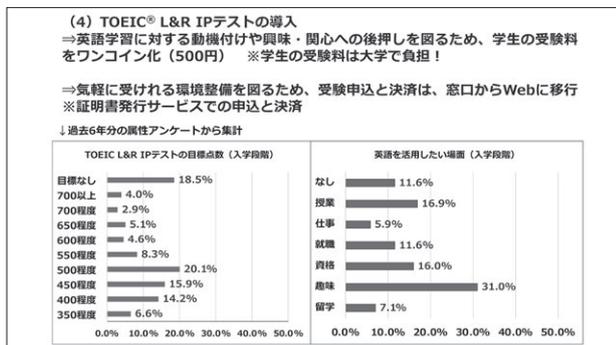
ここからは本題である、本学でのTOEIC Programの具体的な運用についてです。繰り返しになりますが、本学では英語への興味関心やその必要性を学生たち

自ら気付いてもらい、自立した学習者となってもらうことを望んでいます。そこで、2007年から大学内でTOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)の団体特別受験制度(IP:Institutional Program、以下IPテスト)を導入しました。

受験は任意ですが、より多くの学生に受験してもらうために受験料は500円を設定しています。また、2020年度からは受験申込についても簡易化し、タブレット端末の証明書発行サービスで申し込みや決済が可能となりました。

資料4のグラフは、本学の入学段階での学生の英語に対する意識を調べたアンケート結果です。任意受験の他、本学では学部の新入生と3年生、大学院修士課程1年生を対象に全員受験制度を導入しています。これらの学年の初年次における属性アンケートを集計したのになります。

(資料4)

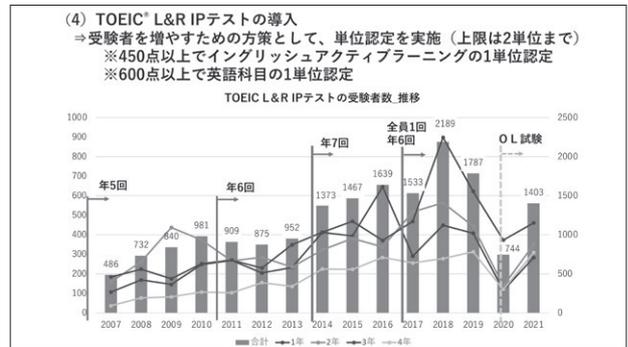


資料4の左のグラフを見ると、入学初期の段階では、TOEIC L&Rスコアの目標なしという割合がやはり高いです。英語を活用したい場面について集計した右のグラフでは、趣味に活用したいと意識する割合が非常に高くなっています。もちろん英語を継続的に学習する上で趣味に活用したいという理由は良いことだとは感じるものの、入学初期段階においてキャリアとしての英語という意識が高いとは言い難いアンケートの結果となっています。

■ 任意受験者は上昇傾向

資料5は任意受験者数の推移です。

(資料5)

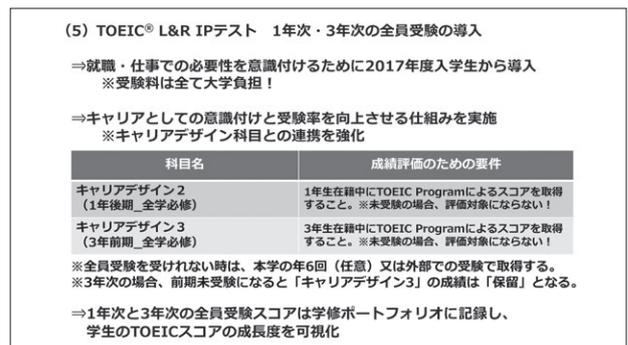


年間実施回数が変わる年はあるものの、任意受験を始めた2007年度以降、受験者数は順調に上昇していると考えています。ただ、2020年度はコロナ禍でオンラインでの実施に全て切り替えたこともあって受験者数はかなり少なくなっています。任意受験に加えて1、3年生、修士課程1年生には全員受験も実施していることも影響し、1年生やキャリアを考え始める3年生において受験への意識が少しずつ高くなっている状況も伺えます。

■ 全員受験の実施や
 キャリアデザイン科目とも連携

この全員受験の実施について学部1、3年生に絞って紹介します(資料6)。

(資料6)



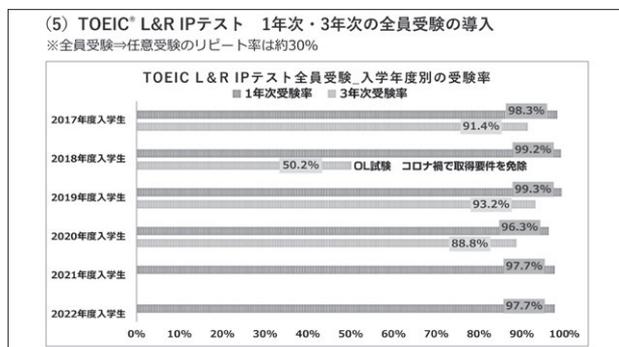
キャリアと英語との意識付けをより強くするねらいで、1、3年生全学部の共通必修科目であるキャリアデザイン科目とも連携し実施しています。受験料はすべて大学が負担しています。受験の強制力を確保するために、1年生在籍中にTOEIC L&Rのスコアを取得していないと評価対象にしないといった成績要件に組み込むこともしています。これは3年生でも同様で、シラバスにも明記しています。

ただし、受験の有無が必修科目の評価に直結してくるため、一定のセーフティネットも設けています。基本的には、定められた受験日に必ず全員受験する想定ですが、事情があって受験できない場合には、任意受験として用意している受験機会でも代用してもよいことにしています。加えて、TOEIC L&R公開テストのスコアも認めています。いずれにしても受験の必須を前提としたセーフティネットです。

全員受験のスコアは、各学生の学修ポートフォリオの中に大学側で記録しており、いつでも自分の成長度を見て振り返ることができる環境を作っています。

こうした実施体制により、当然のことながら受験率は非常に高くなっています。資料7は、入学年度ごとの初年次の受験率と、学年が進行して3年生時点での受験率を示しています。グラフ集計後も未受験者には重ねて受験を督促するため、最終的な受験率は限りなく100%に近い値になっています。

(資料7)



■ スコア分析で教育改善に

大学としても、学生のスコア伸長を把握し、検証ができるようにしています。例えば、1年生の時と3年生の時のスコア増減を分布化したグラフを作成しています。こうしたグラフから、上り幅のピークがどこにあるかを把握したり、300点以上スコアが伸びているような特異例の背景を検証したりしています。スコアデータは、正課の科目の中にTOEIC Programに特化した科目を新設するなどの教育改善にも活用しています。

■ ICT活用でさらにTOEIC® Programの運用を推進

今後の展開としては、英語学習におけるICT活用の可能性を探っていきたいと個人的に考えています。タブレット端末の活用という点では、TOEIC Programの運用においてはもちろんのこと、既存のプログラムでも、その活用の幅をまだまだ広げていくことができると考えています。例えば、意欲の高い学生に対してはこうしたICT環境を利用したTOEIC® Speaking & Writing Tests(以下、TOEIC S&W)の受験も可能になると期待しています。

また、グローバルラウンジの利用促進も図ることができると考えています。グローバルラウンジでは年6回のTOEIC L&Rの任意受験に合わせて対策講座などを実施していますが、ICT活用で受講者を増やす環境を作りたいと思っています。例えばグローバルラウンジ利用で学生のウォレットに特典が入るような取り組みもZ世代の学生たちにとっては有効なアピールになるのではないかと考えています。こうした環境整備も含め、TOEIC Programを通して学生の動機付けを図ることができるよう継続的に後押しをしつつ、既存のプログラムも検証と改善をしていきたいと考えています。

質疑応答

Q 英語学習に対するモチベーションのばらつきが課題です。英語学習初・中級者へのモチベーション維持・向上で工夫されていることがあったら教えてください。

A 本学でも正課の英語科目は習熟度別クラス編成を行っており、基礎クラスと中級クラスの全学生のモチベーション維持・向上は課題の1つです。工夫としては、TOEIC Programをあえて正課の英語科目とは関連付けないことにより学生自身の学習の自由度を高めています。学部1、3年生の全員受験では受験に強制力があるだけで高いスコアを求めてはいません。また、スコアの記録も成長度の確認や振り返りの機会を与えることとなります。これらの取り組みがモチベーションの維持・向上に効果があったかどうかは断言できませんが、初めから高いスコアや目標の達成を求めすぎないことも必要だと考えています。

Q TOEIC Program導入後、学生や教員の英語に対する学習姿勢や意識の変化を教えてください。

A TOEIC Programは継続的な学習と受験をすることで、学習のポイントをつかみ、スコアが上昇する傾向にあります。本学では、全員受験をきっかけに任意受験にも申し込む学生が増え、さらに平均スコアが上昇する結果も得られています。教員側としても全員受験で1年生から3年生のスコア変化を把握できるようになり、正課の科目にTOEIC Programに特化したものが新設されるなど積極的な教育改善につながっています。

Q 高い受験率を維持するため、学生への周知をどのように行っていますか？

A 3年生の全員受験でのTOEIC L&Rスコア取得は、キャリアデザイン3という必須科目の成績評価の要件になっています。3年生は就職活動を意識して全員受験を7月下旬に実施する体制としているため、早めに学生ポータルシステムで通知し理解を求めています。

しかしながら、受験しない学生も当然おり、何度も事務局から連絡して催促するとともに、受験状況を随時正確に管理する点は苦勞しています。

教養あるグローバル人材養成に TOEIC® Programを活用



宮崎公立大学 人文学部国際文化学科 教授・地域研究センター長

竹野 茂 氏

■ リベラルアーツ教育を理念とする単科大学

本学は九州の南部、東海岸に位置し、2023年に30周年を迎えます。1学部1学科の人文学部の単科大学としてリベラルアーツ教育を理念に教育をしてきました。1学年の定員は200名、全学で約900名の学生が在籍し、男女比は女性7割、男性3割です。九州内のみならず、西日本を中心に全国から集まっています。

■ 1年次からの一貫した少数ゼミと 3専攻の横断的な学びが特徴

本学の教育の特色は、「教養あるグローバル人材養成」です。問題探求的思考を備えグローバルに活躍できる人材育成を目指し、これを実現させるために必要な語学を中心とした教養を身につけさせています。

全国的に内向き学生が多いと言われる中で、海外留学に積極的に興味を示す学生が多く、2015年から2019年までの5年間において公費留学、異文化実習、私費留学の経験者は725名と、その割合は在籍者のうち平均16%に上ります。イギリスの教育専門誌が発表した、国内大学の国際性を示す「日本人学生の留学比率」の2018年のランキングでは国内4位にランクインしたこともあります。

続いて、カリキュラムについてです。教養課程と3年生からの3専攻(言語・文化専攻、メディア・コミュニ

ケーション専攻、国際政治経済専攻)の専門課程で構成されています。教養課程は、英語、東アジア言語、フランス語といった語学と情報などのスキル習得を中心とするグローバル人材養成プログラム、そして一般教養とキャリア教育などからなる現代教養科目群という2つの科目群で成り立っています。

カリキュラムの特徴は2つあります。1つ目は1年生から4年生までの少数かつ一貫したゼミ教育で、基礎ゼミに始まり、基幹ゼミ、3年生からの専門ゼミと徐々に専門性を帯びていきます。2つ目は緩やかで横断的な3つの専攻での学びです。例えば、言語・文化専攻の場合、専門専攻からは8単位以上必要ですが、加えて他の2つの専攻からも各4単位を取る必要があります。

■ グローバル人材を養成する 英語教育プログラム

次にグローバル人材養成プログラムを中心とした語学関連科目について紹介します。資料1は語学関連授業の抜粋です。ここでは英語教育プログラムに絞って紹介しますが、必修英語は計17単位で、1年生から2年生前期までの3セメスターで履修する英語Ⅰ～Ⅲ、1年生から2年生後期までの4セメスターで履修するCALL A～D、そして1年生前期の検定英語Ⅰがあります。

(資料1)

		1年		2年		3年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
グローバル人材養成	必修	英語 I (R+W) ・CALL A ・検定英語 I	英語 II (R+W) ・CALL B	英語 III (R+W) ・CALL C	CALL D		
	選択	英語科音声指導法 I (Speech I)	英語科音声指導法 II (Speech II) ・検定英語 II	英語スピーチ I (Speech III)	英語スピーチ II (Speech IV) ・英語 IV	英語ディベート I (Speech V) ・英語 V	英語ディベート II (Speech VI) ・英語 VI
教育職員免許科目	必修	中国語 I ・韓国語 I ・英語科音声指導法 I (Speech I)	中国語 II ・韓国語 II ・英語科音声指導法 II (Speech II)	中国語 III ・韓国語 III ・第二言語習得論 ・英語スピーチ I (Speech III)	中国語 IV ・韓国語 IV ・英語科教育法 I ・英語スピーチ II (Speech IV)	中国語 V ・韓国語 V ・英語科教育法 II ・英語ディベート I (Speech V)	中国語 VI ・韓国語 VI ・英語科教育法 III ・英語ディベート II (Speech VI)
	選択		言葉の習得	アメリカ文化論 ・現代英文法	英語学概論 ・多文化主義 ・現代化・サリス小説 ・社会言語学	英語科教育学演習 I ・英語史 ・英語統語論	英語科教育学演習 II ・英語スピーチ・コミュニケーション論 ・英語音声学 ・英語指導法概論

英語 I～IIIは1学年200人を習熟度別に基礎、中級、上級の8クラスに分けており、1クラス最大30名の少人数で行います。CALLは計4クラスとしています。

英語 I～IIIは、英語母語話者を中心に6名の教員が担当し、1週間のうちリーディングとライティングが各1コマあります。相当量の英文を読み、書くことが必要で、例えばリーディングでは、週3.5時間のリーディングと週8,000語、 Semesterで64,000語という最低目標があり、このノルマをクリアしないと次のクラスを受けられません。

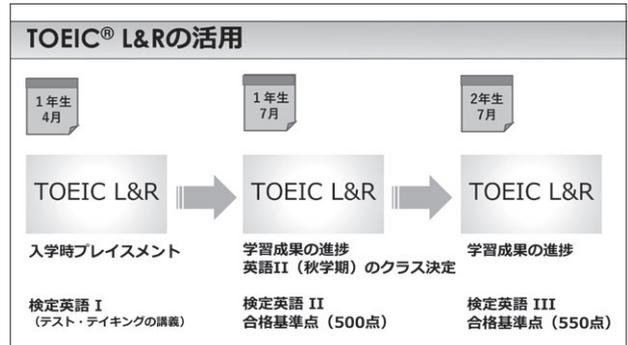
2年生後期からの英語IV～VIは選択科目で、各自の専門に合わせて選択します。英語ゼミの学生は卒論を英語で作成する必要があるため、これらの選択科目のいずれかの選択を推奨しています。選択科目まで含めて考えると多くの英語関連授業を受講することができますし、教職課程を修得する場合はさらに多くの授業を履修することになります。

■ クラス分けや必修科目合格基準に TOEIC® L&Rを活用

ここからは、本学でのTOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)の活用について紹介します。計3回の受験機会を設けており、4月の入学時の受験に始まり、1年生と2年生の7月末の前期終わりにもそれぞれ受験します(資料2)。この3回のテストの受験料については大学負担です。TOEIC L&R公開テストや団体

特別受験制度(IP: Institutional Program、以下IPテスト)など資格試験に関しては、後援会から受験料の半額補助の支援をしてもらっており、学生たちは外部資格試験を受けやすくなっています。

(資料2)



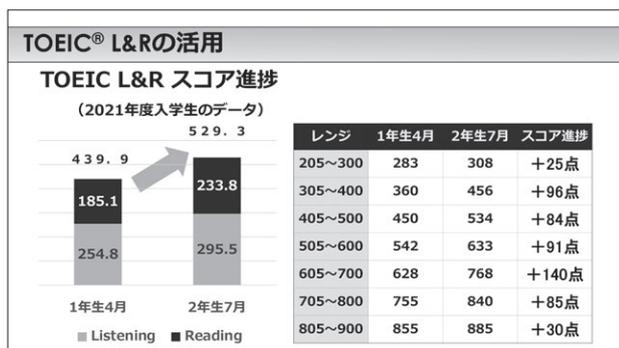
こうした受験タイミングの意図は、入学時のスコアは習熟度別クラス編成を行う上で参考になり、1年生前期終わりのスコアは後期の英語IIのクラス編成のために利用しています。また、2年生前期終わりの受験は必修英語の成果を明らかにするために実施しています。

1年生前期の必修科目として触れた検定英語 I は、テスト・テイキングについて英語母語話者の教員から指導を受けるもので、その先の選択科目である検定英語 II と III は合格の基準にTOEIC L&Rのスコアを用いています。合格基準として、検定英語 II は500点以上、検定英語 III については550点以上です。これらの検定英語 I～IIIには受講免除スコアという基準も設けています。検定英語 I では600点以上、検定英語 II では665点以上、検定英語 III では730点以上あれば受講免除となり、単位を得ることができます。

■ スコア推移はどの層でも上昇

TOEIC L&Rの受験結果を資料3で示します。2021年度入学生の入学時から必修英語の最後である2年生前期終わりまでのスコア進捗です。

(資料3)



1回目と3回目の受験の1年半の間に、平均してどのスコア層でも上昇傾向がみられ、全体では約90点の上昇があります。なかなかの成果が出ていると受け止めています。入学時点での平均スコアは、同学年のTOEIC L&R IPテストの全国平均には及んでいないものの、1年半の間に全国平均を大きく追い越して、ほぼ新入社員レベルになっています。

■ 教育実習の履修要件にも

TOEIC® Testsのスコアを設定

本学では英語の教員免許状を取得できますが、教育実習の実習要件としてTOEIC® Testsのスコアを活用しています。

本学で取得できる教員免許状は、いずれも英語の中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状です。提携大学の科目等履修生となるダブルスクールで、小学校教諭一種または二種の教員免許状を取得することもできます。

本学は教育学部を設置していないものの、開学以来300名以上の教員を輩出してきました。教員採用を目指す学生は近年15~20名で推移していますが、採用試験の合格率はほぼ100%となっています。

その原動力は、教職を目指す学生や既卒者に対する教職支援室の手厚い支援によるものです。この教職支援室では、県内の学校長を経験した客員教授を迎えて教科以外の特別講座などを指導してもらっています。また、

教職員を目指す学生の掘り起こしと情報提供、現役の教員とのネットワークづくりなどを目的としたシンポジウム「教育フォーラム」も2018年から毎年開催しています。

英語の教員免許状を取得するには教育実習を実施する必要があります。本学では教育実習の履修要件にTOEIC Testsを活用しており、そのスコアをまとめたものが資料4です。

(資料4)

教職課程について - 教育実習履修要件 -			
背景: 教育実習は受け入れ校に多大な負担をかける →基礎的な英語運用能力の証明をしたい →教育実習の履修要件としてTOEIC Testsスコアを設定			
	TOEIC L&R	TOEIC S&W	備考
中学校	550点以上	SとWの平均が110点以上	S: 90点以上かつ W: 100点以上
高等学校	600点以上	SとWの平均が125点以上	S: 110点以上かつ W: 120点以上

3年生修了の段階で必要なTOEIC L&RまたはTOEIC® Speaking & Writing Tests(以下、TOEIC S&W)の基準スコアです。TOEIC S&WはTOEIC L&Rとの互換性を取りつつSpeakingとWritingの平均で設定しています。

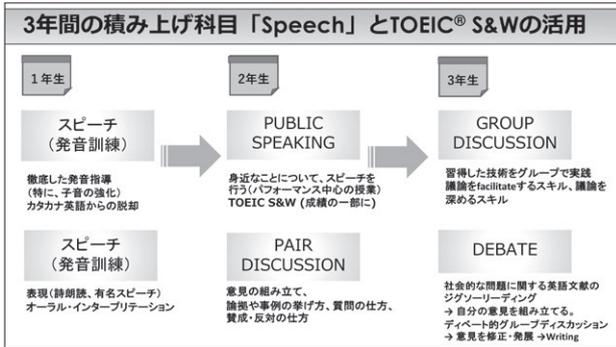
この履修要件は、教育実習の受け入れ校に大きな負担をかけないようにとの配慮から、学生の英語力を保証するため設定しています。これまで、英語力について表立ったクレームを受けたことはありませんし、受け入れ校の先生から発音をほめていただくなど、むしろ英語力の質を評価してもらったこともありました。

■ 発音訓練から始まる積み上げ科目

「Speech」

本学の特徴的な選択科目の1つである「Speech」について紹介します。1~3年生までの積み上げにより、徹底した発話能力を身につけるクラスです。TOEIC S&Wの活用にも関係し、教職課程の場合は選択必修で資料5の6つの授業を受ける必要があります。

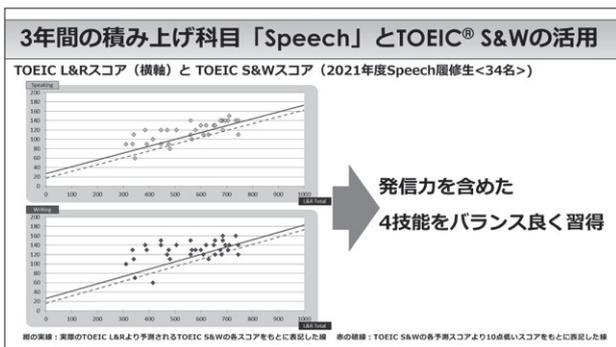
(資料5)



1年生では徹底した子音を中心とした発音教育を行い、2年生でパブリックスピーキングやペアディスカッション、3年生ではグループディスカッション、ディベートという流れです。もともとは、1994年に中津燎子先生を迎えて発音訓練をする1年限りのプログラムとして始まりました。TOEIC S&Wは2007年から活用し、本年度で16年目になりますが、Speechの成績の一部として活用しています。

資料6のグラフは、2021年7月にTOEIC L&RとTOEIC S&Wを受験したSpeechの履修者34名のデータです。横軸がTOEIC L&R、縦軸がそれぞれSpeakingとWritingのスコアを示しています。

(資料6)



グラフには正の相関が表れていると思います。4技能バランスよく英語学習ができているのでないでしょうか。一般的にSpeakingとWritingは訓練を受けていないため、TOEIC L&RとTOEIC S&Wのスコアに相関関係が見られないというケースが多いと聞きます。それに対してこうした結果が出てくるのは、Speech履修

者が1年生の時から発音訓練を継続し、アウトプットする力もつけているためだと考えています。

■ 英語力を生かした多様な就職先

最後に、学生の就職状況を紹介します。昨年度の就職率は98.3%で就職先も多様です。資料7は過去5年間の公務員就職データです。公務員以外では、地方大学ながら大手企業にも就職しています。留学経験がある卒業生は、航空会社に就職して国内線国際線のCAや、海外の取引先の営業を担当するなど、その経験を生かした働き方をしている傾向もあるようです。

(資料7)

まとめ - 本学の就職状況 -		
就職率98.3% (2021年度) 多様な就職先 公務員試験合格実績 (既卒含む)		
種別	人数 (2017年度~2021年度)	
国家公務員 地方公務員	53	地方公務員、労働局、福岡出入国管理庁、入国警備官、航空自衛隊、海上自衛隊
その他	18	大学職員、高等専門学校職員、各種団体
計	71	
第1期生(平成9年3月卒業)以降、253名が九州を中心とした公的機関に就職		
○本学のリベラルアーツ教育の成果として多様な人材育成と高い就職率につながっている		

資料8は過去5年間の教員採用試験合格実績です。

(資料8)

まとめ - 本学の就職状況 -		
教員採用選考試験合格実績 (既卒含む) 教育学部ではないのに多くの英語教員を輩出している		
種別	人数 (2017年度~2021年度)	内訳
公立	68	小学校19名(うち7名:卒業後通信教育等で必要単位修得の上免許取得) 中学校40名 高等学校9名
私立	4	高等学校4名
計	72	小学校19名、中学校40名、高等学校13名
第1期生(平成9年3月卒業)以降、328名が小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教員となっている		

このほか、大学院修了後、大学の教員として活躍する卒業生もいます。最後になりますが本学は学生の柔軟な思考を育て、人間として伸ばす、面倒見の良い大学としてこれからも頑張っていきます。

質疑応答

Q Speechで発音を徹底的に行ってきた理由とその成果を教えてください。

A 第一に、英語の音声を発音できなければ音を正確に聞き取ることはできないだろうという理由からです。英語の特徴的な音が発音できれば、音の連結のコツや特徴を掴み聞き取ることができるようになると考えています。日本語にはない英語の特徴である子音と母音との分離も行っていますが、英語の音声のチャンク同士の音声的な関係が意味のまとまりとも関連があるため、読解にも役に立つはずです。

Speechの授業を受けて衝撃を受ける学生がほとんどで、確実に学生の変化があります。2年生のSpeech授業内でのTOEIC Speaking Testでは、最初に短い英文を音読するのですが、初見で意味を解釈した表現読みができており、成果として表れていると思っています。

Q 教育実習の履修要件でTOEIC Testsを導入後、学生に対する教育実習先の反応を教えてください。

A 導入前後での変化は特にありませんでした。教育実習に行っている学生は割と生徒と良い関係を築くことができているようです。むしろ生徒たちに慕われて、教育実習生ロスのような反応があったりするようです。

Q リーディングで1 Semester 64,000語がノルマとのことでしたが、語数についてはどのように把握されているのでしょうか。

A Extensive Readingでは、英語多読支援アプリを活用しています。アプリ上で読みたい本を選択し、その後Q&Aを解答していくことでどの程度読んだかが語数としてカウントされます。同時にアプリを開いている時間も計上されるため、こうした数値を基に語数などを把握しています。自己申告ではありません。

グローバル時代に対応した 言語能力養成を目指す —静岡県立大学の取り組み—

静岡県立大学 言語コミュニケーション研究センター

前センター長 言語学博士 **吉村 紀子 氏**

センター長 言語学博士 **藤森 敦之 氏**



吉村 紀子 氏



藤森 敦之 氏

■ 英語教育を支える三本柱

本学では15年以上前から英語教育の組織やシステム、内容について抜本的な改革を実施してきました。その英語教育の改革を支えるのは3つの柱です。1つ目が英語教育の組織となる言語コミュニケーション研究センターの設立です。2つ目が英語教育のシステムと内容、プログラムの充実です。3つ目が研究センターの講師を特任講師として雇用する人事的な試みです。1つずつ概略的に説明します。

まず、言語コミュニケーション研究センターの設立です。設立以前の英語教育は教養学部の教員と多くの非常勤講師が担当してきたのですが、教養学部の改組や急速なグローバル化に対応する英語教育を展開するために2007年、センターを設立しました。基本方針は、英語教育に関する研究を活発に行い、その成果を教育現場で積極的に活用していくことです。全5学部で1～2年生の英語科目を運営するほか、附属施設である自律学習センター「SALL(サール)」と、アクティブラーニングやプレゼンテーションに特化した「STUDIO」の管理も担っています。

第2の柱は、英語教育のシステムと内容、そしてプログラムの充実と展開です。本学1、2年生の英語教育の目標は、第1にオーラルコミュニケーション力の向上、第2に文法知識、語彙力、そして読解力の復習と定着です。1、2年生での英語力向上を踏まえて3、4年生での専門教育に必要なアカデミックイングリッシュを養成

します。このような英語教育の達成に向けて、英語科目の習熟度別クラス編成を全5学部横断的に実施しています。日本の大学では学部縦割りの英語教育が一般的かと思いますが、本学卒業者に学部に関係なく、一定の英語力を保証することを目指して指導しています。

第3の柱として、センターでは専任講師を全て特任講師として雇用するという試みを実施しています。日本の大学の英語教員は年契約の非常勤講師という不安定な立場にいるケースが多いのですが、効果的な英語プログラムの展開には良い教員の確保が必要です。そのために特任講師として雇用して、健康保険や雇用保険などを大学側で加入するなど処遇改善を図っています。現在は6名が特任講師で、うち4名が英語母語話者です。いずれも英語教育や応用言語学などの修士課程を修了した方を雇用しています。

■ TOEIC® L&Rの効果的な活用

次に、TOEIC® Programの導入と役割について紹介します。導入と実施体制、その活用についてまとめたものが資料1です。

(資料1)

TOEIC Programの導入と役割

導入

2016年度～現在

- ・5学部1年生と2年生にTOEIC L&R IPテストを導入
- ・1学年英語1科目の総合評価にスコアを考慮
＝[授業評価+TOEIC L&R IPテストスコア＝総合評価]

⇒ 1年生は5学部に通じて前期と後期の対象英語科目
(1科目)の単位取得には400点以上必要である
(ただし、授業内評価が70点以上の場合は400点未満でも単位取得できる)

⇒ 2年生は5学部に通じて前期の対象英語科目(1科目)
の単位取得に400点以上必要である
(国際関係学部は後期においても対象英語科目(1科目)
の単位取得に400点以上必要である)

本学では2016年度からTOEIC[®] Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)を採用し、そのスコアを参考に英語科目の習熟度別クラスを編成しています。採用理由はTOEIC L&Rが英語の基礎力を客観的に測定できると考えたからです。

具体的な授業内容ですが、1年生の場合は、まず中学、高校で培ってきた英語の知識と運用力の定着を確実なものにすることから始まります。前期末に実施するTOEIC L&Rのスコアに沿って習熟度別クラスを編成し、後期からはそれぞれの習熟度に応じた英語教育を実践していきます。2年生では前期・後期ともに英語力の測定結果に沿ってクラス編成を行い、3年生以降における専門教育に必要なアカデミック英語力の習得を目指しています。

授業内容の詳細について補足しますと、1年生は、英語母語話者の特任講師によるオーラルコミュニケーション中心の授業を1科目、TOEIC L&R用のテキストを用いて文法・語彙・読解の基礎力の定着を目指した授業を1科目実施しています。2年生はグローバル化に対応できる英語力の養成に焦点を置いています。本学学生の英語力を全般的に確実なものとする意図で、必須科目の単位取得にはTOEIC L&Rのスコア400点以上を必要としています。

■ TOEIC[®] Programにより期待される効果

本学の英語教育におけるTOEIC L&Rの役割は2つ

あります(資料2)。1つは英語力測定のモノサシとして習熟度別クラス編成と科目取得要件に利用している点です。TOEIC L&Rによって学生たちは英語学習の到達目標を数値化できるという利点が重要だと考えています。学習効果や目標の数値化は、動機付けや達成感にもつながっています。

もう1つは、授業でTOEIC L&Rを扱うことで中学、高校で習得した文法、語彙といった英語力の復習と定着、そして基礎読解力の向上を効率的に推進できることです。グローバルに活躍できる人材、また教養ある大人の英語コミュニケーションには中学、高校で学習した英語内容で十分だと捉えており、その上で大学英語教育に求められるのは、その能力、知見、知識を効率よく運用できるように積極的な学習の促進です。これを大学英語教育で実践的に実現するためのツールとしてTOEIC L&Rは1つの選択肢だと考えています。

(資料2)

TOEIC Programの導入と役割

役割

- ・英語教育の達成目標の数値化
- ・文法・語彙・聴解・読解の復習
(文法＝文の骨組み 語彙＝文の中身)
(中高校の学習内容をコンパクトに復習できる)

↓

期待される効果

- ☑目標の明確化によって英語学習の効果的な動機付け
(クラスで同じ目標達成を目指して学習しよう！)
- ☑アカデミックイングリッシュの基盤となる基礎力の定着の促進
- ☑就活エントリーシートにスコア記載可

■ スコアレベル問わず伸長傾向

TOEIC L&Rの結果として、全5学部のうち、2学部を例に平均点の推移を紹介します。

1年次後期のスコアを2017年度からみると、A学部では比較的安定して600点に到達しています。一方、B学部では2017年度の平均点が500点だったものの、2021年度後期には540点に到達し、ここ2、3年で着実にスコアを伸ばしています(資料3)。

(資料3)

これまでのTOEIC L&R実績		
・5年間の学部別TOEIC L&R IPテスト平均点（1年次後期）の推移 A学部は比較安定して600点に到達 B学部はここ2、3年で着実に伸びている		
	A学部1年	B学部1年
2017年度後期	596	500
2018年度後期	604	514
2019年度後期	601	527
2020年度後期	621	561
2021年度後期	603	540
※2020年度はTOEIC L&R IPテスト（オンライン）の結果を示す		

なお、2020年度については、コロナ禍によりオンライン実施の結果となっています。

次に、A学部、B学部における前期から後期へのスコア分布の推移について、資料4に示します。

(資料4)

これまでのTOEIC L&R実績					
●1年次のスコア分布の推移 【A学部】 400点未満は5%から1%に減少 600点以上は38%から55%に上昇			【B学部】 400点未満は22%から8%に減少 600点以上は18%から31%に上昇		
IPスコアレンジ	1年前期	1年後期	IPスコアレンジ	1年前期	1年後期
800-895		1%	800-895	1%	2%
700-795	6%	12%	700-795	6%	6%
600-695	32%	42%	600-695	11%	23%
500-595	37%	31%	500-595	35%	35%
400-495	20%	12%	400-495	26%	27%
300-395	4%	1%	300-395	17%	7%
200-295	1%		200-295	5%	1%

A学部では1年生前期において400点未満の学生は5%いました。これが後期になると1%に減少しています。また、600点以上の上位レベルの学生の割合も38%から55%に上昇しています。B学部も同様の傾向を示しており、400点未満の割合は1年生前期終了時には22%だったのが、後期終了時には8%に減少し、600点以上は18%から31%に上昇しました。

■ 項目別正答率の活用がスコアアップにつながる

このような着実な伸長の要因はさまざまあると考えられています。教員の工夫で最も強調したいものの1つが、

科目担当教員へのフィードバックです。TOEIC L&Rのスコアだけではなく、より詳細な項目別正答率のデータを教員間で共有し、次学期で取り組むべき項目を洗い出します。例えば、リーディングセクションにおける文法理解の項目で1年生前期終了時の正答率が60%程度とあまり高くありませんでした。この結果を踏まえて、教員の共通認識のもと後期には文法に注力した学習の指導に当たりました。その結果、後期終了時には文法理解の項目の正答率が約80%にまで到達しています。こうした分析データは習熟度別に得意不得意の項目も確認できるため、教員は担当するクラスにおいて強化すべきポイントを把握して授業を進めることができます(資料5)。

(資料5)

<ul style="list-style-type: none"> ・項目別正答率（リーディング） A学部1年後期 ・文法の平均正答率は70%後半 →前期は60%程度だったため、後期に集中的に取り組んだ結果、後期の正答率が上昇した ・長文読解で具体的内容を見つける問題の平均正答率は60%を下回る ・ちりばめられた情報の関連づけは、平均正答率が50%を下回る →次学期は英語のパラグラフ構成を意識した文章把握に特化
<ul style="list-style-type: none"> ・項目別正答率（クラス毎） 習熟度別の得意・不得意項目も確認できるよう、クラス毎のデータも教員間で共有

その他の教員の工夫として、フォーム作成ツールを使用した効率的な反転学習があげられます。テキストの全てを授業内で解説するのではなく、事前学習で正答率の低かった問題に焦点を当てて、授業内で繰り返し練習することで、基礎力の定着を図っています。

■ 上のレベルを目指すために

以上に紹介したような授業における取り組みだけではなく、多方面から改善を試みています。例えば400点という基準点の設定だけですと、学生がそのスコアをクリアすることに意識が向いてしまう傾向があります。これを改善するために、2019年度からはスケール評価を適用しています。

習熟度別クラス分け編成前の1年生前期は、基本的にはTOEIC Program関連科目の授業内評価とTOEIC L&Rのデータをクロス判定して最終成績を出しています。レベル別のクラス編成になる1年後期からは、スケール評価を適用し、クラスが上位であればあるほど授業内評価が高くなるシステムを導入しました。授業内評価が85点という学生を想定した場合、Advancedクラスでは、85点だと授業内評価がAランク判定です。これがHighやMidのクラスだとBランク、LowのクラスだとCランクになります。このようなシステムの改善は学生のモチベーションの向上にもつながり、徐々に効果が表れていると感じています。

また、一部の学部において、730点以上の学生は、申請によりTOEIC Program関連科目の単位認定や、よりレベルの高い科目への読み替えが可能になっています。評価自体はそれほど変わらないとはいえ、より高いレベルで学習を進めることができるため、最終的にはTOEIC L&Rのスコア自体も上昇していくという相乗効果が見られます。

■ 支援が必要な学生へのバックアップ

TOEIC L&Rの受験機会としては、学期末の試験期間に行われる各学部主催のTOEIC L&R の団体特別受験制度(IP:Institutional Program、以下IPテスト)が基本です。加えて、スコアが400点未満であったり、病気などで受験できない学生のために、センター主催のTOEIC L&R IPテストを8月と2月の年2回実施しています。また、2年生前期までに400点以上を取得できなかった学生に対しては、多くの学部で公開テストの複数回受験も認めています(資料6)。

(資料6)

TOEIC L&R受験の機会の増加

- 期末試験期間(8月上旬及び2月上旬)に実施される学部主催TOEIC L&R IPテストのスコアが成績に反映される
- 上記テストで400点未満の学生及び病気等の理由により未受験の学生は当センター主催のTOEIC L&R IPテスト(8月末及び2月末)、あるいは期末試験より1ヶ月以内に実施されるTOEIC L&R公開テストを受験
- 2年次前期終了時まで400点を取得できなかった学生に対して、複数回のTOEIC L&R公開テストの受験を認める学部がある

なお、2021年2月末に行ったセンター主催のIPテストでは、1年生を中心とした30名ほどの受験者のうち、3分の2が400点をクリアし、単位認定が行われました。クリアできなかった10名程度に対して、センターではさらなる学習サポートとして授業外の学習支援も行なっています。英語の自学自習教室「SALL」では、英語学習用の書籍も充実させるなど利用促進を図っており、2022年度前期は月に延べ200名程度の学生が来室しました。また、SALLでは400～500点をを目指す学生を主な対象者として、期間限定で週2回程度、個別学習支援も行っています。他にも、センター主催IPテストの直前には、センター教員による短期の個別学習サポートも行っています。

センターでは、各学部との連携も重要であると考えています。本学では、センター長と5学部の教務委員からなる英語教育部会(全学教務委員会の下部組織)を作っています。部会では主に授業評価システム改善などを検討しています。また部会委員の先生には、年度初めの学部ガイダンスにおいて、英語科目の授業評価システムの周知を行ってもらい、学生の英語学習への動機付けも図っています。支援が必要な学生の情報の共有なども行うことにより、より緻密な学習サポートを目指しています。こうした活動の結果、2021年度は、2年修了時に進級判定がある3学部において、400点未満のため進級できなかった学生が0人でした。

ここまでお話ししたTOEIC Programに基づく学習指導やさまざまな学習支援策を継続して行っていくことで、学生の基礎的な英語力の維持・向上に今後も努めていきたいと考えています。

質疑応答

Q 全学部でTOEIC Programの活用を行うにあたり、学内の周知や理解をどのように広められたのでしょうか。

A 導入の際にはさまざまな意見が大学内にありました。その議論の中で強調したのが、学生たちの英語習熟度を客観的かつグローバル的に数値化し、可視化することが教師にとって重要であるということでした。学生たちにとっては、習熟度の数値化、学習成果の可視化が動機付けにつながるという大きな利点をアピールしました。結果として、例えば学食などで一生懸命勉強している学生グループの姿を見ますし、上で説明したように一定の成果は得られたと思っております。

Q 単位取得要件400点の設定理由を教えてください。

A 400点の設定については学部ごとに異なる要望がありました。例えばA学部は入試時にある程度成績がよいものですから高く設定したり、またB学部は推薦入学者もいるという事情から低くしたいというようなものです。しかしながら、学部によってスコア格差を設定してしまうと、学部により英語学習への動機付けが異なることになりかねません。基本的に英語教育を学部横断的に展開してるわけですから、そのスコアも学部横断的に決める必要があります。全学部における了承を得られた基準というのが400点ということになります。

Q 2020年度実施のTOEIC L&R IPテスト(オンライン)のスコアは単位認定で活用されましたか。

A オンラインテストの受験は必須としましたが、そのスコアを成績には反映させずに、次学期のクラス分けの参考資料として利用しました。当時はオンライン監督がなく、公正性をいかに担保するかという問題がありました。今後については、オンラインテストの特徴を踏まえて導入の検討が必要だと考えています。AI監視サービスなども導入されているとのことなので、

例えば入学時の事前クラス分けなどで利用できるかもしれません。

Q TOEIC L&Rのスコアを単位取得要件にすると進級できない、卒業できない学生がいないか心配です。

A プログラムを立ち上げた当初は、400点に到達できずに進級できない学生が複数の学部で数名程度いました。ただし、これまでにご紹介したさまざまな取り組みによって、進級判定に関わる学部では昨年度、進級を希望している学生が、400点未満であったという理由で進級できなかったケースはありませんでした。懸念される問題も、さまざまなサポートシステムを導入することで徐々に解消できるというのが実感です。

発行月：2022年12月

発 行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)

東京

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル
TEL (03) 5521-5901

名古屋

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル
TEL (052) 220-0282

大阪

〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル
TEL (06) 6258-0222

公式サイト

<https://www.iibc-global.org>

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.



IIBC あなたが世界をつなぐ
あなたと世界をつなぐ

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication